



12月11日(土)、関市家庭教育支援コーディネーター養成講座の今年度第7回を実施しました。テーマは「真に支援が必要な家庭に、寄り添い届ける支援とは?～LGBTQの正しい理解～」、講師は小金田中学校養護教諭の塚原百合香先生でした。

塚原先生からいただいた資料に、中学生が書いた次のような文章がありました。

「私の周りにもLGBTの人が何人かいます。でも、私はそれを受け入れています。同性の子を好きになったりすることって、とても素敵だと思います。そういうことを前にお母さんに言ったら、『あの子おかまなの?』と言ってきて、私はとても怒ったことがあります。今日もらった冊子をお母さんにも見せようと思います。全国民や全世界の人がLGBTを認めてくれることを、私は心から願っています。」

関市の中学生の現状がよく表れていると思いました。「LGBTフレンドリー宣言」をした関市では、子どもたちのLGBTQへの理解は徐々にではありますが進んできています。大人もこうした現実をしっかりと受け止め、支援を進めていくことが大切です。関市が真のLGBTフレンドリーシティとなれるよう、私たちの活動が求められているのです。



＜受講者の感想＞

- 目に見えない分、悩んでいることが外に伝わりにくいと思うので、もしかしたらという気持ちをもちつつ、普段から情報を取り入れることが大事だと思わせていただきました。子どもたちにとって大切な知識（それは大人にとってももちろん大切ですが）をちゃんと伝えられない教育ではいけないと思いました。間違った知識が簡単に大量に手に入ってしまう今だからこそ、必要だと思います。
- 人権＝人として生きる権利＝だれもが自分らしく生きる権利なのに、どこかで捻じ曲げられ、生きにくい社会になっていることが辛いです。「受け入れるのではなく、共に人として付き合っていく」そんな自分でいたいです。
- L G B T Q の理解は、自分が学生のころと比べると環境も整ってきて、進んでいるように思われます。自分もアライ（支援者）になりたいと心から思います。勇気のある人たちがカミングアウトしてくれて、私たちの知識も増えてきましたが、もっと知りたい、もっといろいろ教えてくださいと助かります。関市の制服が変わるお話で、先生が「男の子のスカートをはいている写真も欲しかった」とおっしゃられて、うんうんと思いました。私もなんだか配慮が中途半端だと思います。私の子どもも「制服変えなくても、男子がセーラー服着ても受け入れてくれる世の中にならなきゃね〜」と、言っていました。
- 関市でL G B T フレンドリー宣言が出ていたことを知りませんでした。学校（子ども）の中では、L G B T の理解が広がってきていると思いますが、親（大人）はどこまで理解できているのか？と思いました。だからこそ、トランスジェンダーの子が親にカミングアウトできないのでは？ぜひ、親世代向けに、母親学級他で大人対象の講座も開いていただければと思いました。

家庭教育支援コーディネーター養成講座参加のお礼

今年度 8 回にわたって開催しました本講座に、熱心にご参加いただき誠にありがとうございました。ここで学ばれたことを、ぜひ、地域や家庭、職場で活用されることを願っております。来年度も本講座を開催しますが、今年度登録済みの方は継続登録となり、再度の登録は不要ですのでお願いします。

